

## 004 神楽フェスティバル

開催日：令和3年7月10日(土)

開催場所：メディキット県民文化センター 演劇ホール(宮崎市)



### 実施状況

伝統芸能として継承される神楽の魅力や地域による多様性を広く発信することを目的に開催。県内外から神楽団体が招待され、神楽の披露や雅楽演奏などがありました。

天理大学(奈良県)の雅楽部が太鼓や笙で奏でる有名曲「越天楽」で幕開け。県内からは、国選択無形民俗文化財の村所神楽、戸下神楽、県指定無形民俗文化財の日之影神楽、新田神楽が出演し、神楽ファンら約600人を魅了しました。

西米良村に伝わる村所神楽は、「地割じわり」を披露。手を大きく広げながら、ゆっくりとした足の運びの優雅な舞いに会場からは大きな拍手が送られました。また、東京都から、国指定重要無形民俗文化財「江戸の里神楽」を招待。神秘的な舞いが披露されました。

来場者は「神楽をそれぞれの地で見ると良さはもちろんだが、今回のように複数を見比べることができる機会も面白い。さらにいろんな神楽を見たくなった」と話していました。

### 出演

雅楽(奈良県天理大学雅楽部「おやさと雅楽会」)、新田神楽(新富町・新田神楽保存会)、村所神楽(西米良村・村所神楽保存会)、戸下神楽(諸塚村・戸下神楽保存会)、日之影神楽(日之影町・宮水神楽保存会)、江戸の里神楽(東京都・松本社中)

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 005 神話のふるさと講演会

開催日：令和3年9月5日(日)

開催場所：メディキット県民文化センター 演劇ホール(宮崎市)



### 実施状況

多くの受賞歴がある映画監督の河瀬直美さんと、本県出身俳優・写真家の永瀬正敏さんのトークイベント。神話が根付く本県の魅力について語り合い、来場した約400人が興味深く耳を傾けていました。

河瀬さんは、本県の「記紀編さん1300年記念事業」の一環として、神話ゆかりの地を撮影した映像作品「美しき日本 宮崎」シリーズを12市町村で撮影。今回はその映像を鑑賞しながらの対談となりました。

河瀬さんは、映像に登場する人々を「文化や歴史、伝統を、日常に根差した大切なこととして守り続けている」と説明。高千穂町の夜神楽を通して、「神楽の場には垣根がありません。心の交流がある」と感想を述べました。

永瀬さんは、「古里を誇りに思えました。『日本の始まりの地』を、県外や海外の人にも興味を持ってもらえたいと思います」と話していました。

「皆さんの暮らしや日常の中にこそ宝があります」と河瀬さん。「比べることなく、豊かなものを子どもたちに伝え、守っていきましょう」と語っていました。

### <美しき日本 宮崎>

県の「記紀編さん1300年記念事業」の一環で河瀬直美さんが撮影した「日南市」「高原町」「高千穂町」「椎葉村」「宮崎神宮・美々津」「西都市・西米良村」「えびの市」「串間市」「延岡市」「日之影町」「総集編(2本)」があり、インターネットサイト「神話のふるさと宮崎」などで公開。1本5分程度。

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、一般社団法人宮崎県教職員互助会

## 006 神話のふるさと県民大学 トークイベント みやざき文学散歩

開催日：令和3年10月10日(日)

開催場所：カルチャープラザのべおか 多目的ホール (延岡市)



### 実施状況

「みやざき文学散歩～神話の地を辿って」をテーマに、神話に親しむトークイベントが開催されました。ゲストとして登場したのは、デビュー作「元彼の遺言状」で第19回「このミステリーがすごい!大賞」の大賞を受賞した宮崎県育ちで小説家の新川帆立さん。

第1部では、新川さんの幼少期の思い出や、小説家を目指したきっかけなどを進行役の加藤沙知さんとの対談形式で紹介。弁護士としての勤務を振り返り、「食い違っているように見えても、実はみんな正しいということがあります。立場によって異なる社会の切り方は、小説を書く時にも生きています」と話していました。第2部では、宮崎県立看護大学の館真晴教授も参加し、日向神話を解説。アマテラスオオミカミや海幸彦、山幸彦の物語について盛り上がりました。

新川さんは、神話に登場する神様が親近感を得られる魅力的なキャラクターであると神話が現代に愛される理由を解説。アマテラスオオミカミの好奇心が抑えられず岩屋戸から覗いてしまう純粹さや、スサノオノミコトの乱暴な面もある一方で、勇敢な力をもつという二面性が面白いと紹介しました。

新川さんと館教授、加藤さんは、高千穂町の高千穂神社や天岩戸神社、延岡市の愛宕山などを訪問。場所の印象に話を弾ませました。

### 出演者

新川帆立、館真晴、加藤沙知 (MR T宮崎放送アナウンサー)

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 007 キキタビ (記紀旅)

開催日：令和3年5月～10月

開催場所：県内各地



### 実施状況

「神話の舞台宮崎」をテーマとした観光プログラム。令和2年度のさきがけプログラムに続き、本大会でも実施しました。

令和3年度は、新たに「日本武尊の物語」「源氏・平家の物語」「百済王の物語」を追加し、9エリアに拡大。対象神社も8神社増えて22神社となり、より一層御朱印巡りを盛り上げました。

各神社とも趣向を凝らした記念御朱印で、青島神社はワシントンアパームや青島の全景がデザインされた南国らしさあふれるイメージで、大会ロゴマーク(水引)を刻印。

野島神社是全国的にも珍しい「切り絵」の御朱印で、同神社に伝わる「浦島太郎」伝説などが細かな切り絵で表現されました。

また、「キキタビサポーター」の44名が、インスタグラムなどのSNSでPRに協力し、これまで神社や神話などに馴染みのなかった若い世代をはじめ、幅広い県民が方が県内の神話ゆかりの地を訪れ、神話を学ぶ機会となりました。

### 対象神社

江田神社、東霧島神社、天岩戸神社、高千穂神社、霧島岑神社、霧島東神社、都萬神社、銀鏡神社、愛宕神社、青島神社、野島神社、潮嶽神社、鵜戸神宮、狭野神社、宮崎神宮、都農神社、立磐神社、大御神社、白鳥神社、神門神社、比木神社、椎葉巖島神社

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会



## 008 第26回宮崎国際音楽祭

開催日：令和3年7月31日(土)～8月15日(日) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター(宮崎市) ほか



© K.Miura



© K.Miura

### 実施状況

「真夏の祭典～天地の恵みに祈りを込めて」をテーマに、メインプログラム、スペシャルプログラム各5公演、教育プログラム3公演、サテライト・コンサート1公演を行いました。

タンゴの改革者アストル・ピアソラ生誕100周年を記念した「ピアソラの風景」で開幕。音楽祭初となるヴァイオリンとバレエのコラボ、歌劇「トゥーランドット」(コンサート形式)では、地元の合唱団も参加して全曲上演するなど、いずれも充実した内容となりました。

俳人の夏井いつきさんをゲストに迎えたトークコンサート、懐かしのテレビ番組のテーマ曲を演奏するポップス・オーケストラ、「500円コンサートの日」なども開催。教育プログラムでは、「子どものための音楽会」、ミュージック・アカデミー in みやざきの受講者による「新星たちのコンサート」が開かれました。四半世紀を超える歴史を重ねてきた同音楽祭は、コロナ禍のため2年ぶりの開催となりました。

**メインプログラム** 【演奏会1】 エクスペリメンタル・コンサート「ピアソラの風景」【演奏会2】レーピン&諏訪内晶子「響きあう音、そして祈り」【演奏会3】ザハロワ&レーピン「パ・ド・ドゥ」ロシア最高峰のバレエとヴァイオリン【演奏会4】三浦文彰×辻井伸行「黄金のふたり 魂のコンチェルト」【演奏会5】プッチーニの世界「誰も寝てはならぬ」

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、公益財団法人宮崎県立芸術劇場、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、門川町、公益財団法人門川ふるさと文化財団

## 009 オトタビ

### 吉都線で行くおとなの遠足ツアー

開催日：令和3年7月16日(金) ■ 開催場所：JR 吉都線沿線(えびの駅、KITTO こばやし、狭野神社 ほか)



### 実施状況

フォーカスプログラム「宮崎国際音楽祭」にちなんだ日帰りツアーで、観光列車に乗ってJR 吉都線沿線の食や景色とともに音楽を楽しみました。

観光列車「特急はやとの風」を、宮崎県西部の西諸地域で貸し切りの特別運行。県内各地から18人が参加しました。車内では、案内役のフリー鉄道アナウンサー田代剛さんが、各駅の歴史や霧島連山など沿線の魅力を紹介していきました。旅のハイライトとなる高原町の狭野神社参集殿では、都城市出身のヴァイオリニスト山内達哉さんが、霧島をイメージしたオリジナル曲など10曲を披露しました。

### 行程

宮崎駅—都城駅—観光列車「はやとの風」に乗車—えびの駅下車(見学)—KITTO こばやし(昼食)—小林生駒高原葡萄酒工房(試飲体験)—狭野神社(ミニコンサート鑑賞)—宮崎駅

また、9月3日に開催を予定していた「オトタビ日南線編 アルケミストと行く!ひなたの真ん中ツアー」は、新型コロナの影響を受け中止となりました。大会イメージソング「ひなたの真ん中で」を制作した音楽ユニット「アルケミスト」と一緒に、JR九州の観光列車「海幸山幸」に乗車して、宮崎市—日南市を日帰り巡る旅を予定していました。

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 010 子どもと楽しむミュージック・デイ

■ 開催日：令和3年9月23日(木)、25日(土)、26日(日)、10月2日(土)

■ 開催場所：都城市総合文化ホール、都城市まちなか交流センター、宮崎市中心市街地、宮崎カーフェリー船内 ほか



### 実施状況

宮崎市と都城市の中心市街地などを会場に、子どもたちが気軽に音楽を楽しめるコンサートを開催しました。

都城会場では、地元の子供たちや同市出身のヴァイオリニスト山内達哉さんらが出演。新型コロナの影響で、屋外から屋内へ会場変更し、2日間に日程を分けて開催しましたが、当日は親子連れなど約390名が参加し、演奏に聴き入りました。宮崎会場では、芸文祭事業「アートフェスティバル」と同時に開催され、神戸市室内管弦楽団や県内アーティストが中心市街地4会場で演奏を披露。参加者は、クラシックやジャズ、声楽など多彩なジャンルの演奏を楽しみました。

このほか、カーフェリー船内や施設でも子どもたちに生演奏を届けました。各会場では、初めて見る楽器に興味を示したり、リズムに乗って体を揺らすなど、思い思いに楽しむ子ども達の姿が見られ、音楽に触れる楽しさを子ども達に伝える機会となりました。

### プログラム

【都城会場】9月25日/市総合文化ホール▽26日/まちなか交流センター 【宮崎会場】10月2日/宮崎市中心市街地(MRT micc、宮崎キネマ館、県庁5号館、県電ホール)▽9月23日/宮崎カーフェリー船内コンサート▽9月14日/子ども発達支援の家 つなぐ(施設利用の子どもたち向け(非公開))

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、子どもと楽しむミュージック・デイ実行委員会

## 011 全国高校生みやざき短歌甲子園

■ 開催日：令和3年9月25日(土)、26日(日) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター 演劇ホール(宮崎市)



### 実施状況

高校生が短歌の出来映えや鑑賞する力を団体戦で競う大会に県内外の強豪6校が出場。さががけプログラムの全国高校生短歌オンライン甲子園(p.96)同様、今回もリモートでの対戦となりライブ配信されました。

本県からは宮崎西高校、宮崎商業高校、延岡学園・尚学館高等部が出場。全国高校生短歌大会(岩手県盛岡市)優勝の八戸高校(青森県)、高校生万葉短歌バトル(富山県高岡市)優勝の盛岡第三高校(岩手県)、牧水・短歌甲子園(日向市)3位の星野高校(埼玉県)とともに「今しか詠めない」作品をめぐって、激しい論戦を繰り広げました。優勝は尚学館高等部、準優勝は宮崎西高校。ディベートをとおしてお互いの短歌のよさが一層光った決勝戦でした。

審査委員は、歌人の伊藤一彦さん、米川千嘉子さん、俵万智さん、大口玲子さん、笹公人さん。翌日には「何をどう歌うか～短歌と題詠」をテーマに審査委員による座談会も開催しました。

### 表彰

団体戦/優勝、準優勝▽作品賞/伊藤一彦賞、米川千嘉子賞、俵万智賞、大口玲子賞、笹公人賞、角川「短歌」編集部賞、「歌壇」編集部賞

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 ▽共催=宮崎県高等学校文化連盟



## 012 レキタビ

## 牧水と耳川の源流をたどる旅

■ 開催日：令和3年10月9日(土)～10日(日) ■ 開催場所：日向市、美郷町、諸塚村、椎葉村



## 実施状況

若山牧水のふるさと日向市東郷町坪谷や耳川流域を巡るツアーを開催、県内各地から11人が参加しました。

1日目は九州電力の皆さんやダムマイスター岡部章さんの解説で3つのダムを見学。特別に入れていただいた塚原ダムでは当時の最新技術で建設されたダムであることを学び、上椎葉ダムでは解説を聞きながら堤体を渡りダム湖クルージングも楽しみました。

夜は国の重要文化財鶴富屋敷にて上椎葉神楽を鑑賞。椎葉村ならではの料理に舌鼓を打ちました。

2日目は、まずは日本三大備長炭の一つ、美郷町北郷宇納間の日向備長炭の窯を訪問。江戸時代から続く伝統の技に触れました。

牧水生家・記念文学館を見学した後は、道の駅とうごうとあくがれ蒸留所へ向かい、焼酎の製造過程を見学。最後は廻船問屋が栄えた美々津の歴史ある街並みを散策して、歴史をたどる旅を締めくくりました。

## 行程

【1日目】 宮崎駅発—西郷ダム—塚原ダム—平家本陣(昼食)—上椎葉ダム—よこい処しいばや(休憩)—鶴富屋敷見学—上椎葉神楽鑑賞  
【2日目】 宇納間・日向備長炭炭焼窯—牧水生家・記念文学館(昼食)—道の駅とうごう(あくがれ蒸留所)—美々津・日向市歴史民俗資料館—宮崎駅着

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 013 短歌オペラ「若山牧水 海の声 山の声」

■ 開催日：令和3年10月16日(土) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター アイザックスターンホール(宮崎市)



## 実施状況

若山牧水の半生を短歌と音楽で描いたオペラ。脚本は牧水研究の第一人者で歌人の伊藤一彦さん、作曲と演出を作曲家の仙道作三さんが担当しました。

冒頭まずは観客の皆さんをオペラの世界に誘うために伊藤一彦さんと歌人の俵万智さんによるトークイベントを行いました。

オペラ本編では、牧水の恋人小枝子役を宮崎市出身の川越塔子さん、母マキ役を都城市出身の増田弥生さん、牧水の長男旅人や地元の子どもの役を牧水の母校坪谷小学校児童が務めるなど、宮崎県ゆかりの歌手・演奏家が多数出演。短歌が次々と歌い上げられると同時に、岩切天掃さんによる書がスクリーンに映し出されていきました。渡辺大さん演じる牧水が旅人とともに帰郷したシーンでは、マキ役の増田さんが包み込むような歌声で2人を受け入れ、母親の思いを表現。「本番では楽しく演じたい」と話していた児童たちも伸びやかな歌声を披露し、会場からは大きな拍手が巻き起こりました。

鑑賞した男性は「短歌の世界をオペラで表現するという試みが興味深く、楽しめました」と話していました。

## 出演者

トークイベント／伊藤一彦、俵万智  
オペラ／渡辺大、川越塔子、柏原奈穂、駒田敏章、増田弥生ほか

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、一般社団法人宮崎県教職員互助会

## 014 ひなたのめぐみ大学校

「ラボツアーへようこそ！ おいしさリサーチラボと人気商品の秘密を探れ！」

開催日：令和3年7月17日(土) 開催場所：宮崎県食品開発センター(宮崎市)ほか



### 実施状況

企業の技術力向上を支援するため、技術相談や研究開発、試験を行う県食品開発センターなどを訪れ、産学官の連携により製品化された「宮崎の新しい食」について学ぶ体験ツアーを実施しました。参加したのは、宮崎商業高校生ら24人。センターでは、乳製品・こうじ飲料製造販売会社「Milk Lab.」の山中代表から、牛乳を使った甘酒の誕生秘話を聞きました。

参加者は2種類のサンプルを試飲し、香りや風味、食感などを分析する「官能評価」を実際に体験しました。

午後は高鍋町の「ママンマルシェたかなべ」に移動。同施設内でゴボウを使った人気菓子「ゴボチ」を製造販売する「デイリーマーム」和田代表から、官能評価を活用したマーケティングなどについて学びました。



「サツマイモって面白いっ！」

開催日：令和3年8月21日(土) 開催場所：宮崎大学地域デザイン棟スタジオ・ルーム(宮崎市)



### 実施状況

「サツマイモ」をテーマに、研究や加工などサツマイモに携わる全国5か所をオンラインで結んでの講座を配信しました。パネリストたちはそれぞれの立場からサツマイモの魅力を伝えるとともに、大学で研究する面白さや、食を仕事にすることの魅力も訴えていました。

本県からは、宮崎大学農学部教授の國武久登教授が「サツマイモの育種について」紹介しました。サツマイモの多様な品種や、本県では自然開花が難しいサツマイモの花を披露し、多くの品種を掛け合わせ分析することで、今までにない性質の栽培や製品化に適した品種を発見できる可能性を示唆。このほか、出演者からは、地域の歴史文化や土壌とサツマイモの関係、焼酎づくりの工程やイモの海外輸出の取組などが紹介され、サツマイモの奥深さを伝える時間となりました。

### 出演者

國武久登(宮崎大学農学部教授)、大谷基泰(石川県立大学生物資源環境学部准教授)、岡田吉弘(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター上級研究員)、／渡邊幸一朗(有限会社渡邊酒造場代表取締役)、／奈良迫洋介(株式会社くしまアオイファーム代表取締役社長)



「ひなたのめぐみ大学校」は、本県の食文化を学ぶ講座として全6回を企画していましたが、新型コロナの影響を受け、「さかの町で見て・触って・食べて 君もお魚博士に！」(門川町・8月8～9日)、「高千穂郷に生きる釜炒り茶の世界」(五ヶ瀬町ほか・9月18～19日)、「宮崎の地域作物をおいしく食べよう！ 地マメフェスティバル in 野尻」(小林市・9月26日)、「先人・神々に感謝～棚田のお米が導く平和の軌跡」(日之影町ほか・10月9～10日)の4回は中止となりました。

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、国立大学法人宮崎大学



## 015 「だれやみ文化大学」吉田類トークショー

開催日：令和3年8月28日(土)

開催場所：シーガイアコンベンションセンター(宮崎市)



### 実施状況

居酒屋を巡るテレビ番組で知られる“酒場詩人”吉田類さんと、歌人の伊藤一彦さん、俵万智さん(リモート参加)、宮崎大学の中村佳文教授が、宮崎の本格焼酎や食文化について語り合いました。

第1部は吉田さんと伊藤さんの対談。県民に根付く晩酌文化「だれやみ」と、酒場での交流を通して宮崎の魅力や食文化などを探求しました。「言葉が通じなくても酒があればコミュニケーションできます」と吉田さん。県内の居酒屋を回った経験から「20度の焼酎は飲みやすく、料理もおいしい」と絶賛しました。第2部では俵さん、中村教授も交えてのトークショー。酒場の楽しみ方、酒人との出会いなど、エピソードを交えながらそれぞれの考えを出し合いました。

出演者からは食材や人柄など「宮崎の良さ」を評価する声相次ぎ、県民にとってあらためて本県のポテンシャルを確認する時間となりました。

新型コロナの影響で、会場を日南市から宮崎市へ変更し、無観客・オンライン配信とするなど、当初の予定を変更して実施しました。吉田さんとのオンライン交流会、日南市の舩肥散策ツアーも中止となりましたが、多くの方がオンライン配信によるトークショーを楽しみました。

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 016 食文化シンポジウム～みやざきの食がカラダとミライを創る

開催日：令和3年9月23日(木)

開催場所：メディキット県民文化センター 演劇ホール(宮崎市)



### 予定していた実施状況

「スポーツランドみやざき」を推進する本県での、食の宝庫という特性を生かしたスポーツ選手の体づくり、健康づくりの取組の現状と課題などを、講演とパネルディスカッションで探り、会場の約160人と、オンライン配信の視聴者が耳を傾けました。

第1部では、延岡市出身で競泳五輪メダリストの松田丈志さんが、競技人生を支えた「みやざきの食」について基調講演。「厳しい練習の中で支えになったのは食。トレーニングより食事を変えた方が体は変えられます」と現役時代の経験を語りました。

第2部では、コーディネーター(リモート参加)のもと、松田さんと県内の管理栄養士、医師や飲食店経営者の6人が「スポーツ×食×ヘルスケア」をテーマに、スポーツにおける食の役割や、宮崎の食文化の今後のあり方について討論。本県はスポーツや食に恵まれた環境にある一方、「キャンプで来県するプロ選手のノウハウを県民の健康に生かすことが課題」などの意見が出されました。管理栄養士を目指しているという高校生は「選手の競技力を高めるために、食の大事さやさまざまな分野の人たちから知識を得る大切さが分かりました」と話していました。

### プログラム

- 【第1部】基調講演「競技人生を支えた『みやざきの食』について」松田丈志(元競泳五輪メダリスト)
- 【第2部】パネルディスカッション「スポーツ×食×ヘルスケア」

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、一般社団法人宮崎県教職員互助会

## 017 みやざき郷土料理アレンジレシピコンテスト

開催日：令和3年7月15日(木)～8月31日(火) ■ 開催場所：Web



### 実施状況

山の幸に海の幸と、自然豊かな宮崎県の食材の魅力や食文化の多様性を全国に発信しようと、古くから宮崎が育んできた郷土料理のアレンジレシピをwebで募集しました。県内外から89点の応募があり、入賞15点を選びました。入賞レシピは、ホームページ「みやざき郷土料理アレンジレシピ」で公開。あわせて野菜ソムリエの篠原有紀子さん考案のアレンジレシピ4種類の動画も公開しました。集まったレシピは、冷や汁や菜豆腐、ねりくり、切り干し大根、おび天、アユ、ハマグリなど宮崎由来の料理や食材を使ったものがほとんど。フードコーディネーター、調理師など宮崎の郷土料理、食材に詳しい4組が審査員を務めました。見栄え、革新性、手軽さ、栄養バランス、宮崎に対する愛情などを総合的に評価しました。

大賞のDiceさん「赤の冷や汁と白の冷や汁」は、トマトジュースの赤と豆乳の白を活かしたメニュー。トマトジュースの酸っぱさ、豆乳のクリーミーさが食欲をそそる一品に仕上がりました。優秀賞はビッグパパさんの「メヒカリムースの延岡八杯汁あんかけ」、フードロス削減をテーマとした「食べきり宣言賞」(部門賞)にはレディーへべさんの「はまぐりご飯のへべすライスサラダ」などが選ばれました。

### 表彰

大賞1点、優秀賞6点、各部門賞(食べきり宣言賞、ヘルスケア賞、スポラン賞、きいちゃん賞)各2点

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## 018 南九州ファミリーマート共同商品開発

開催日：令和3年9月21日(火)～10月18日(月) ■ 開催場所：ファミリーマート(宮崎県、鹿児島県)



### 実施状況

「みやざきの食と農を考える県民会議」との連携による「Karada Good Miyazaki」プロジェクト事業の取り組み。令和2年の実施に続き、南九州ファミリーマートと共に「宮崎の食材で支える県民の健康・体力づくり」をテーマに、南九州大学管理栄養学科がレシピを考案しました。

商品化されたのは3品。県産の鶏肉と豚肉を具材にした「ばくだんおむすび」は、エネルギー源となるとともに、疲労回復によい食材を使った栄養価の高い、アスリートにおすすめの一品。3万個以上を売り上げる大ヒット商品となりました。

「チキン南蛮トルティーヤ」は、ボリュームのあるチキン南蛮に日向夏を使ったタルタルソースでさっぱりと仕上げた一品。ササミ肉を使用し、よく噛むことで満足感が得られます。

また、「日向夏のゼリー」は、汗をかいた後に欲する酸味と甘みを感じるデザートで、ビタミン補給できるよう調理法を工夫して開発されました。

新商品開発に当たった南九州大学の学生と南九州ファミリーマート関係者は、宮崎県庁に河野知事を表敬訪問し、新商品をPRしました。

### 商品概要

南九州大学管理栄養学科「ばくだんおむすび(鶏唐揚・豚焼肉)」(248円・税込)、「日向夏香る!キチン南蛮トルティーヤ」(268円・税込)、「日向夏のムースゼリー」(239円・税込)

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会



## 019 宮崎ハイボールキャンペーン

■ 開催日：令和3年6月16日(水)～10月31日(日) ■ 開催場所：県内各地の飲食店



### 実施状況

宮崎の本格焼酎を「もっと美味しく、ヘルシーに楽しんで！」と誕生した宮崎ハイボール。令和2年度のさきがけプログラムに引き続き、本大会でも実施しました。宮崎の本格焼酎をソーダ割にしたハイボールと宮崎グルメを飲食店で味わう「宮崎ハイボールキャンペーン」を県内各地で実施し、本県の焼酎文化を広めました。

令和3年度は、県内全域から参加店舗を募集し、約100店舗の飲食店が参加。新たに日向市の特産品「平衛酢(へべす)」と串間市の特産品「完熟キンカンたまたま」を使用した「ご当地ハイボール」が登場しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、会食や酒類の提供自粛の措置がとられる時期もありましたが、宮崎の本格焼酎のPRや県内飲食店の応援キャンペーンを通して、多くの県民が食文化を通して国文祭・芸文祭に参加する機会となりました。

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会  
▽協賛=日向市、串間市 ▽協力=都城市、延岡市、日南市、小林市、西都市、えびの市、高鍋町、高千穂町

## 020 サチタビ(中止)

■ 開催日：令和3年9月4日(土)～10月10日(日) ■ 開催場所：西米良村、えびの市、延岡市、都城市



### 予定していた事業内容

宮崎ならではの食文化を継承している人や、新しい食文化の創造に取り組んでいる人々の情熱を感じる体験ツアー。参加者に山の幸、海の幸を味わってもらい、体験や講話を通じて地域の魅力や食文化を再発見するツアーを予定していましたが、新型コロナウイルスにより中止となりました。

### 予定していた行程

「カリコボーズの住む村～西米良村」9月4日  
九州山地の奥深い山々に育てられた山の幸を堪能し、のんびりと山村の休日を楽しむツアー。

「えびの田の神さあサイクリング！」9月18～19日

収穫期を迎え黄金色の稲穂が広がる田園地帯をサイクリングし秋の収穫を祝う1泊2日のツアー。

「海の幸」を堪能！海とともに暮らす島野浦島」10月2～3日

1泊2日の日程で日豊海岸に浮かぶ島野浦島を訪ね、漁師飯などの海の幸を堪能するとともに、遠とんば見場山からの絶景を楽しむツアー。

「五感で味わう古民家料理教室 in 庄内もちなが邸」10月3日、10日

明治時代の歴史や文化が詰まった同市庄内の歴史的建造物、もちなが邸で調理体験や講話を通して、食文化伝承の大切さに触れてもらい、ガレット作りやみそづくりを体験するツアー。

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会